

中国 5 県における地域格差及び所得格差による課題を解決し、
暮らし続けられる地域をつくる事業

公募結果

■ 概要

選考結果	採択
団体名	たすき株式会社
代表者名	代表取締役 高井 淳一郎
申請事業名 主題	場を通じた多世代・多業種の関わり合いとコレクティブな支援から、まちにチャレンジや生業を増やす事業
申請事業名 副題	
エリア／テーマ	【島根県エリア】 中山間地域・離島における生業づくりとそれを支える仕組みづくり
解決すべき社会課題	【領域】 1) 子ども及び若者の支援に係る活動 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動 【分野】 ② 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援 ③ 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援 ⑥ 地域の働く場づくりの支援 ⑦ 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援
申請事業の概要	木次町三新塔エリアにて 2 軒の空き家の活用を行う計画を立てており、本事業では、その 2 軒のうち「働く」と「滞在する」の機能を持つ『榎(とが)邸』で実施し、 【1】地域内に魅力的な働く場所が少ない(ワークスペースと雇用先) 【2】チャレンジ支援の連携、より一層の強化によるコレクティブインパクトの必要性 【3】空き家活用の問題 の解決に向かって事業を行っていきます。 ワークスペースの創出や魅力的な企業の誘致で働く受け皿を創出し、多業種・多世代・多団体の連携やチャレンジを行うセクターとの連携を強化し、雲南流のコレクティブインパクトの実現を図る。
事業実施地域	島根県雲南市 三新塔地区
申請事業期間	資金提供契約締結日より2023年3月まで
申請助成額	2,000 万円

■ 審査コメント

- ✓ 商店街の空き家を改修して「働く」「泊まる」機能を持つ施設を作るという計画は、一応理解できる。
- ✓ 雲南市のソーシャルチャレンジバレー構想に参画している地域団体は、全国的に注目を集めている団体が多く、生態系を形成していることで知られる。その地域活動環境の特性と課題を踏まえた取り組みといえる。
- ✓ 注目したのは、スケールアウト支援の部分。幸雲南塾の先駆的な取り組みのストックと連携し、さらにその先にある専門的なスタートアップ支援や都内企業やビジネスパーソンのサテライトとして機能することによる、ダイバーシティ化をめざす着想はすばらしいと思う。
- ✓ 3つのエリア又島根県エリアのテーマ、解決すべき社会の諸課題、実行団体に期待する活動概要とマッチしている。
- ✓ 異業種、異世代、異団体で構成された法人で、課題解決に取り組む点は評価できるし期待したい。
- ✓ 起業家精神を受け入れる商店街というロールモデル構築に期待したい。
- ✓ 全国的に評価されている雲南市の活動を背景に、その土壌、生態系を生かし関係資本を活用していくことは評価できる。
- ✓ 雲南市には様々な取組があるが、本格的なスタートアップ支援は課題だと考える。そこに専門的なスタートアップ支援を入れる本事業は評価できる。
- ✓ 雲南市ではこれまで多様な地域活性化の試みが成果を上げており、その勢いに乗じた計画であるが、悪く言えば、それを利用した計画である。
- ✓ 申請団体の株式会社は、東京の企業と地域団体との連携した団体ではあるが、休眠預金を活用した事業に申請する目的で結成されたもので、この団体自体がどのように地域にかかわって計画を進めていくかは未定で、現時点では計画通りに事業が遂行されるかどうかの見通しはたてにくい。その理由として、母体となる東京の企業と行政等との包括的連携が、今年になって結ばれており、「たすき」株式会社が立ち上げられている。行政主導的な印象はぬぐえない。
- ✓ 実行団体の一つの柱となっている「三新塔あきば協議会」は、地域住民の自主的な地域活動を行う組織ではあるが、本事業へのかかわり方が具体的には見えてこないし、本事業そのものが、地域住民を巻き込んだものになるのであろうか。
- ✓ 本計画の空き家の改修は実行されるであろうが、多様な交流が生み出されるかどうか、生業が生まれ、働く場所となっていくかどうか、課題解決の事業の継続性という点では問題が残る。
- ✓ 「企業チャレンジ」運営事務局とのつながりだけではなく、企業団体とのパイプを強化していくことが必要である。
- ✓ シェアハウス、コワーキングスペース等から得られる収益の見通しが不明です。
- ✓ 多世代、多分野の交流から多くの知見を得るという意義は理解できますが、都市部と異なり人が少ない地方でどれくらい利用が見込めるか等の事業計画が不明です。
- ✓ 雲南市や周囲に三日市ラボとも近接する立地環境の強みから、事業機会の確保が期待できるところであるが、一方で、入居単価、提供サービス利用単価の設定目安などが明らかでなく、具体的なビジネスモデルとして課題があるように思われる。都内でコワーキングスペース事業などを広く手掛けている企業が経営参画されているので、クリアさせる課題ではあると思うが、本事業の採択と

なった場合、検証を行う上で、着手時の事業性について明らかにされておく必要を感じた。一方、事業の「社会性」「革新性」については成果が期待される内容と考える。

- ✓ 助成期間終了後、自己資金・民間資金もなく、本事業の継続を支えるための経費が不明なため、事業継続できるのかは判断しかねる。
- ✓ 直前に包括的連携を結んでいることが気になる。休眠預金のために作られた連携ではないことは理解しているが、適切なガバナンスとコンプライアンスを心がけていただきたい。
- ✓ コワーキングスペースでの収益とあるが、単価や具体的な収益方法の記載がない点が気になる。
- ✓ 社会性、革新性については期待できるが、事業性については十分に判断できない。
- ✓ 様々なチャレンジがなされ注目されている雲南市だが、ここからさらに一段進める必要性がある。本事業によるチャレンジがその推進役を担うことを期待する。